肺結核患者尿中二現 *,* \ ル こウ 口 ク 口 モ 1 ゲン 二反應

豫後的價値ニ就テ

東京市療養所

熊 谷 安

正

緖 言

: 低キ酸化階級ナル「ウロクロモーゲン」ナリト鰤定セリ、 1 酸化セラレテ「ウロク 所ニ「ウロクロ シト唱へタリ。 誘導體ナリ、 ゲン」反應ヲ發表シ、該反應ハ從來ノ「デァツオ」反應ニ平行スルモノニシテ且ツコレニ比シテ多數ノ陽性率ヲ舉ゲ得ベ Weisz 氏ハ多年「デァツオ」反應ノ本態ニ就キ研究シ、一九○七年同反應ヲ呈スルモノハ尿色素 「ウロクロ モー 即生體細胞ガ毒素ニョリテ侵害サル、結果、 ゲ ロームニを継化ス、 ン」ガ出現スルナリト云フ、 Vicisz 氏ハ其酸化劑トシテ過「マンガン」酸加里ヲ用ヒ、 而シテコノ「ウロクロモーゲン」ハ極メテ不安定ナル物質ニシテ容易ニ 氏ニョレバコノ物質ハ毒素作用ニ 酸化不全ヲ生ジ正常ナラバ「ウロクローム」ノ生成サルベキ 基ク細胞蛋白質ノ破壞生成 氏ノ所謂「ウ ーム」ノ一段 ŋ U Æ

抑 ξV 限局サレタルモノナリト ツ「ヂァツオ」反應ノ出現スル場合ト雖モ、 等諸氏ニョリ注目セラレ、其他多數ノ記載アレドモ、 肺結核患者ニ於テ持續的ニ「ヂァツオ」反應ノ出現スルハ、 說カル。 他ノ臨牀的徴候ニヨ 重篤ノ肺結核ノ場合ニシテ「ヂァツオ」反應陰性ナル例モ多ク且 リ充分其ノ豫後ヲト知シ得ベキガ故ニ其ノ價値タル 豫後不良ナルコト ハ Schröder, Paul Videbeck, J.v. Szabo-ヤ甚

出シ、 U Weisz 氏自身モ其後コ ーゲ ン」反應ト ·肺結核 ノ反應ヲ以テ特ニ肺結核 ノ豫後ニ就テ發表シタル 豫後判定ニ資シ テ 價値アル モノ Vitry: Heflebower, Schnitter 等ヲ始メト = ۲ ヲ力説シ、 九一〇年「ウロク シテ其他報告續

U

毛

ゲーン」定量法ヲ發表シタリ。

信 ヮ mmens ラ 尙 タ 至 輓近結核病型ノ分類法ニ諸説出デ、ヨリ殊ニ其各病型ト該反應ノ有無ノ關係、 論爭 ラバ 近時 ıν ジ п 中 ク 最早姑息的 シド ス 等最近ニ Klarc 等ニョリ外科的結核ノ方面ニ於テモコノ反應ヲ重要視サル、ニ至リ、 U 肺 jν Æ 結核 ハ當ヲ得タ ス 1 jv. ゲ ノ豫後 モ、 至リテ ン」反應ノ本態果シテ 療法ヲ息テ 其 ルモ ショ部ニ _ 臨牀的價值 v ノニ = 於テ、 一關スル 非ズ、 斷然根本的治療ニ赴ク _ 報告甚多々就中 ハ次第ニ認メラレ來ルヲ見ル、 唯其ノ實際的價值ハ實ニ著明ナルモ ノ反應ヲ推奬シ吾人ガ該反應ノ本態ニ就テ全然無智ナル限リ、 Weisz 氏ノ説クガ如キモ 際シテモ簡單ナル成否ノ標示トシテ、 Rustemeyer ハ多數例ニ於テ實驗シ精細ニ報告 べ シ ト唱へ、 ノナリャ否ヤニ īfii 一九二〇年 Kieffer シテ又コノ反應ヲ以テソノ手術 ノナリト認メタリ、 興味ヲ以テ注目セラル、 就テハ勿論異論モアリ、 施行ノ 部ノ學者 氏ハ其大戰爭ト 前後コノ反應ヲ 义 Möller, Gottshalk, Le-ハコノ反應ノ出現 ス 其出現 ノ成否ノ標示 ıν - 結核ニ 如 或 所アリ 檢 ノ原因 就テ 未遽 ス -3 ス 述べ カニ jν シ ŀ モ

兹二 ヮ カラズ實地家ニ最モ U ŋ 兩年東京市療養所ニ於テ ם モ 1 ゲ ン」反應 行 ハ ν 1 臨床的 易キ簡易ナル方法ナ 観察シタル所 地位概 子力ク ノ大體ヲ報告セ ル ニ ノ. 如 一拘ラズ・ シト雖モ、 未 . ン ダ ョク ŀ 本邦ニ於テハ未ダ多數 ス ッ 普及セ jν 所以ナリ、 ラレ ザ ソ jν 力 , 成績 ノ患者ニ就テ觀察サレ 觀 アリ、 ノ如キ先人ノ報告ト コ ν 余ガ 杜 撰 タ 7 n 致 顧 コ ŀ ₹ ズ 多 何

記 ナ

セ シ

得

シ

ŀ

說ケリ、

Jessen 等ハ人工氣胸術ニ

ŀ

作

斬新

知

見アル

=

非ラズ。

三滴滴下シテ美麗ナル黄色ヲ呈スルモ 酸 薄 加里ノ一千倍溶液三滴ヲ滴下ス、一 鮮清澄ナル き暗紅色ヲ呈ス 尿 Ŧi. |竓ヲトリ之ヲ淨水ニテ三倍ニ稀薄シ二本ノ試驗管ニ分注シ一本ヲ對照トシ、 jν コトア ν F Æ 陰性 滴ニシテ旣ニ美麗ナル黄色ヲ呈シ三滴ニ及ンデ黄金色ヲ呈ス ノヲ陽性(十)トナシ、 ートス。 何等色彩反應ヲ呈セザル場合ヲ陰性トナス、 他 ノー本ニ過「マンガン」 毛 , ヲ强陽性 時 = 暗褐色或

察第

原

著

大正十一年三月ョリ六月ノ間ニ於テ東京市療養所收容患者四百十二名ニ就キ、「ぎァツオ」反應竝ニ「ウロクロモーゲン」

反應ヲ檢シタリ。

第 表 肺結核患者四一二名二就半、病期別百分比率

第	第	第	病
Ξ	=	_	
期	· 期	期	期
222	79	111	員
ناظ کا	79	111	數
			U.R.
45	77	98	_
			U.R.
2 8	14	2	+
			U.R.
27	9	-	++
Company Control			D.R.
6 8	• 91	100	-
			D.R.
10	8	_	+
			D.R.
22	1	_	++

傰 考 右ノ内'チョツオ」反應(一)ニシテ'ウロクロモーケッ」反應(十)或ど(十)ノ伢〃多キモ

(一)ニシテ「ヂァツオ」反應(十)又ハ(卄)ナリシコトハー例モ經驗セズ

第一表ニ示スガ如ク第一期患者ニ於テ ハ「ヂァツオ」反應陽性零ナルニ「ウロクロモーゲン」反應陽性 ニ於テハ大約 2:1 第三期ニ於テハ ōō:32 ノ割合ニ全體ヲ通ジテ大約 35:2 卽約一倍半、「ウロクロモーゲン」反應陽 2% アリ、第二期

性ノ頻度多キヲ見タリ。

第一表ノ患者ニ就キ、滿一ケ年ヲ經過シタル後其轉歸ヲ調ベタリ。

第 二表

(甲)兩反應ノ各成績別ニー年後ノ轉歸百分比率ヲ示ス

ウロ	反
ク ロ モ	應
l ゲ ン	. 成
(1)	績
	員
270	
	數
	略
	治癒
28	退退
	所
	輕
	快
34	退
	所
	增
10	悪
10	退
	所
	死
23	
=:7	t
•	尚
10	在
	所

原 蕃 熊谷=肺結核患者尿中ニ現ハルト「ウロクロモーゲン」反應ノ豫後的價値ニ就テ

力。

早ク死亡シタリ、 前表ニ見ル如ク四 反應ノ初メテ出現シタル日トハ自ラ意味ヲ異ニシ、 今反應檢出後ノ生存日敷ヲ算シ、 一二例中一年間ニ死亡シタル者一六七例(四○%)ニ及ビタルガ、大體ニ於テ兩反應ノ陽性ナル 各成績別ニ平均シタルニ左ノ數ヲ得タリ、 カ、ル平均数ノ意義或ハ少キ者ナラムモ以テ大勢ヲ察知スルヲ得ン 但シコノ反應發見ノ日ハ Æ

在	死亡	增惡退所	輕快退所	略治退所	轉歸
35	167	43	102	65	員數
77	37	62	90	97	U.R.
20	30	22	7	1.5	U.R.
3	33	8	2	1.5	U.R.
91	62	81	98	100	D.R.
3	13	-	2	0	D.R.
6	25	12	U	0	D.R.

「ヂァツオ」 $\widehat{+}$ $\widehat{+}$ \bigoplus \bigoplus (乙)轉歸ノ各目別ニー年前ニ於ケル兩反應ノ百分比率ヲ示ス 49 - 27 - 32666 76 0 19 1 1 7 30 3 10 10 10 10 11 13 86 79 31 84 66

4 1 1 9

9

Ті. Ті. Ті.

1 ŦĬ

熊谷=肺結核患者尿中ニ現ハルヽ「ウロクロモーゲン」反應ノ豫後的價値ニ就テ

ノイ大正十年三月=ツ最近迄二ク年間修三方ラ経道中原復			
てニーミニリア・麦エニニアミ月余・今			
過中時々檢查ヲ討ムヘキ 必要アリー以下三 表ニガラ別ノモ	59	43	(+
すぎ、えないないことができる。	7	2	(+)
ル 自う貨幣に	1	1	
上、こう)、巾:賃券:金)」、司一息券:光テドラ	13-	104	「チッチオ」反應(一)
誤う残レガルヘシ	1	4	
7. 色ノギノビノ、 元焦り 三ちヒーノ	62	55	(+)
コレヲピラ豫後的偃値ヲ決定セントコルニ 田制ラ失コルノ	:	ŧ	
	1-1	50	(+)
原ノ紀果ナルカ杉ニ - 輩ニー過帽ノ反應モ狙シグルベク	17	6	10 A
自己・イグと、見、一動性・CESER	0	2	「クロフロモーディーー
前項ニ示シタルモノハ多數ノ患者ニ就キ一齊ニ行ヒタル檢			
	檢查後平均生存日數	例数	成

檢尿セシモノヲ集メタリ。

第三表
入所當時ョリ
、「ウロクロモ
ーゲン
反應常ニ陰性ナリ
アリシ例

9	8	7	6	5	4	3		1	番號	
									姓名	第三表
32	16	21	15	33	52	53	25	51	年齡	ア ア 別 當 時 ヨ ツーウ ロ クロ
I	П	I	I	I	I	m	D	I	病期 合併症	ワロクロモーケン
略治癒	著シク輕快	"	,,	輕快	略治癒	萎縮性?不變	=移リツ、 増殖性潛伏型	蓍シク輕快	縋	モークン」反應常ニ陰性ナッ
6	17	7	17	17	7	26	6	;	觀察月	リ を を

10

29

1

輕 快

16

五五六

觀察第二、

略治癒

6 7

13

5 10

8 10 15 21

3 6 4 5 8 12

5 14 14

6 16 21 10

維 性

原 暮

入所時ョリ經過中毎囘陰性ナリシ三十五例ハ所見少キ第 35 34 40 45 1 期ノ患者カ、 輕 第二期第三期ニ 快 属ス 6 13 ル慢性増殖性或 纖

シテ良好ノ經過ヲトリタルモノナリ。

12 11 第四表 入所時「ウロク 36 リ死亡マデノ生存日數ヲ平均スルニ七八、 U Æ 1 ゲン」反應陰性ニシテ觀察中陽性ヲ呈シ來リシ例 1 期 死 歸 五日ナル數字ヲ得タリ。 初テ検出シタル後ノ生存日敷 36 81 142 115 50 49 145 細まノー

例 以上十二例ニ就キ陽性反應ヲ發見セル日ヨ ハ第二期患者ニテ慢性ノ經過ヲトリタル 第五表 入院時旣ニ「ウロクロモーゲン」反應陽性ナリシ例 經過中ニ大喀血ヲナシ爾來病勢惡化シ陽性ヲ呈スルニ至リシモノナリ。 觀察日數

病期、合併症

經過、轉歸

姓

名

20 45 26 21 29 25 26 22 43 21 37 22 28 31 41 17 39 19 40 19 18 49 24

| ((一) | ((一) | (八) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) | (1) |

113 175 24 41 115 79 229 190 212 76 45 73 355 34 41 112 709 581 38 62 44 34 100

入所時既ニッ	77	76	75	74	73	72	71	70
ニーウロクロモーゲン」反								
」反應陽性ナリシ	42	99 20	17	28	35	17	25	17
上記七十七	II	П	腹腹	П	Ш	四腹	痔	0 腸結
中			腴炎			膜炎	麼	結核
例中ニ於テ、六宮	~	串 位	膜炎			膜炎	瘻	核
於テ、六例ハ症狀	(一)トナル	輕快(十)ノッ、	膜炎 "	"))	膜炎 "	,,	核 次第二增惠
於テ、六例ハ症狀ノ輕快ト共ニ	二所	快(十)ノッ、退所	,,	, 40			,,	核 次第二增
於テ、六例ハ症狀ノ輕快ト共	一)トナル(所後二ケ月後ヨリ	快(十)ノッ、退所	,,			,,	,,	核 次第二增惠 死

リッ、アリ。 ガ内一例ハ其後腹膜炎ノ再燃ニョリ不幸ノ轉歸ヲトリ殘五例ハ略治癒マデ輕快シテ退所シ、 一一包口 力 ア化一光井 車性 退所後ェ順調ナル經過ヲト

例(今サ)ハ症狀最初ヨリ蓍シキモノナク、 ツオ」反應モ時トシテ陽性)ニシテ陽性ノマ、輕快退所シ現今社會ニ活動シツ、アリ。 又他ノ疾患モ證明セ ザリシニ拘ラズ「ウロ ŋ п Æ ーゲン」 反應終始陽性(「ヂ

三例ハ増惡重症ノマ、ニテ退所シ他ノ六十七例ハスベテ死ノ轉歸ヲトリタリ、

コレ等六十七例ノ死亡ニ至ルマデノ觀察

核 第五表ノ患者ハ概ヲ第三期ノ肺結核ニシテ、主トシテ進行性滲出性ノ病型ヲ有シ且ツ肋膜炎、 日敷ヲ平均シタルニ八二・六ナル敷ヲ得タリ。 淋巴腺腫、 痔瘻等ノ合併症ヲ有シタルモノ少カラザリシコ 表示ノ如シ。 腹膜炎、 喉頭結核、 腸結

ŀ

結 論

ス。 ヮヮ ם ク U Æ 1 ゲン」反應ハーデァ ツオ」反應ニ比シ操作簡易ニシテ且ツ肺結核ノ豫後判定上之ニ優 レ タ v 價値ヲ有

=; ヮ U ŋ U ŧ 1 ゲン」反應ノ持續的出現スルハ豫後不良ヲ語ル。 同反應ハ重篤ノ肺結核殊ニ進行性滲出性病變ノ際多

ク出現スルモノナリ。

終ニ顧問矢部辰三郎先生ノ御指導ヲ深謝シ、所長田澤博士ニ敬意ヲ表ス。(大正十二年六月稿)

文獻

- 1) M. Weisz. Beitr, z. Klinik d. Tuberkul 1907. 2) J. v. Szaboky, Zeitschr, f. Tuberkul, 1911. 3) Sehnitter. Zeitschr, f. Tuberkul, 1919. 4) Kieffer, Zeitschr. f. Tuberkul. 1920. 5) Gottschalk, Beitr. z. Klinik d. Tuberkul. 1922. 6) Rustmeyer. Beitr. z. Klinik d. Tuberkul.
- 7) Dehoff. Beitr. z. Klinik d. Tuberkul. 1922.—8) Lemmens. Zeitschr. f. Tuberkul. 1923.—9) 根本素,海軍軍醫會會報. 大正五年.

原著